

国立医学部の受験推奨校・過去問演習・模擬面接について～医学部予備校エースアカデミー

* 必ず、塾生ページの「受験本番の事務連絡」資料と動画も確認してください。

* 国公立医学部の出願受付期間は前期後期とも1/27～2/5

(詳細: <https://www.janu.jp/univ/exam/>)

* 1/22(水)の午後に共通テストボーダーが公表される予定です。1/23or1/24以降に随時、国立医学部の受験推奨校をお送りする予定です。

* 後日追加や補足を行うことがあります。チャットワークで通知しますので必ずご確認ください。

▽国立医学部の受験推奨校、出願校の決定と出願

①共通テストの自己採点報告、模試の成績報告

「受験本番の事務連絡」資料に沿って、共通テストの自己採点報告、模試の成績報告を行ってください。

準備ができ次第、推奨校をメールでお送りします。

・第2回マーク模試、記述模試、第3回マーク模試、記述模試の返却後成績報告をお願いします。受験していない場合は必ず「受験できない」の申請を忘れずにお願いします。

・上記模試の成績が不足していて、他の模試の成績があればそちらも報告してください。

・私立医学部の推奨校を送信した方は成績の申請が完了していると思いますので再度申請する必要はありません。

注意: 共通テストの自己採点報告、模試の成績報告がないと推奨校の送信ができません。

特に模試成績の「受験できない」の申請を忘れないようお願いします。

②国立医学部の推奨校の見方について

前期、後期ともそれぞれの推奨校をお送りします。

推奨校をA,B,C,D,Eで表記しています。

推奨度の高い順にA>B>C>D>Eとなります。

表記がない大学は推奨しない大学となります(Eに達していないor科目選択上受験できないor足切りの危険性が高い)。

* 傾斜配点等をすべて計算し算出しています。

大学名の順番は、判定値の高い順に並んでいます。

(同じ判定の中で、最初の大学が最も判定値が高く、最後の大学は判定値が低い)

ただし、総合的に判断すると合格可能性が逆転することもあるため、③のとおり、最終的には塾長が個別でフィードバックをして決定していきます。

<推奨校の記載例>

* 特に推奨する大学がある場合等は個別でコメントを入れていますのでご参考ください。

【前期推奨校】

判定がB,Cの大学から選択することを推奨させていただきます。

【A】

—

【B】

〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学

【C】

〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学

【D】

〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学

【E】

〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学

【後期推奨校】

判定がDの大学から選択することを推奨させていただきます。

【A】

—

【B】

—

【C】

—

【D】

〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学

【E】

〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学,〇〇大学

* 重要: 大学名を指定する場合

例: A大学を推奨させていただきます。

例: A大学、B大学、C大学の中から出願することを推奨させていただきます。

このように、判定の中からではなく、大学名を指定してお送りする場合があります。

(判定も記載します)

→受験校が確定するため、③希望校の申請は不要です。

そのまま速やかに出願を行ってください。

* 地域枠の受験について

原則として、国立医学部では地域枠の方が一般枠よりも少し合格可能性が高くなります。(例外はあります)

そのため、地域枠の受験が可能な場合は、地域枠の出願(併願を含む)を推奨します。

(判定への大きな影響はないため、判定自体は同じです)

地域枠の受験を希望する大学は③の希望校の申請の際に明記してください。

(地域枠の注意点は塾生ページの「受験校の選び方」資料と動画を確認してください。)

* 重要: 推奨校がない場合

コメントに、「残念ながら、国公立医学部の受験推奨校が存在しない状況です」と入れています。国立医学部の推奨校がない状態のため、私立医学部の受験に専念しましょう。

国立医学部専願の場合や私立医学部の受験が終了した場合は、「受験本番の事務連絡」資料の「すべての受験が終了した際の意向確認について」に従って申請を行ってください。

来年度受験に向けて切替を希望する場合は、塾生ページの申請フォームより「来年度に向けた課題作成を希望」と記載した上で申請してください。

(「受験本番の事務連絡」資料を確認してください。)

・「受験だけはしたいので、足切りのない大学を教えてほしい」というご相談がありますが、下記に記載のとおり推奨できません。

データ資料を参考にご自身で受験自体は行っていただいて問題ありませんが、当塾からの推奨はできませんのでご了承ください。

③指定する判定の中から希望校を申請

重要:コメントで、「判定がB,Cの大学から選択することを推奨させていただきます。」のように指定しています。指示に従って大学を選択してください。
(コメントで大学名を指定している場合は、希望校の申請は不要です。そのまま出願してください)

お送りした推奨校に従い、前期、後期ともに出願を希望する受験校を
「最大第5希望まで」、塾生ページの「申請フォーム」から申請してください。
申請を確認し、フィードバックを返信します。

注意:希望校の申請への回答は1回のみ可能です。必ず資料と動画を確認し、よく検討してから申請をお願いします。

<希望校の記載例>

国立医学部の希望校です。

懸念点:欠席日数50日

・前期試験

第1希望:○○大学、第2希望:○○大学、第3希望:○○大学、第4希望:○○大学、第5希望:○○大学

・後期試験

第1希望:○○大学、第2希望:○○大学、第3希望:○○大学

* 地域枠など特殊な枠の場合は併願かどうか明記して記載してください。

例

第一希望:○○大学(一般、地域枠併願)

* 懸念点や特殊な事情がある人

(例:欠席日数**50**日、評定が悪い(**2.5**)、英検の資格をもっていて特定の医学部では加点されるなど)は同時に記載して申請してください。

* 相談は記載しないでください。(相談の記載があると破棄されます)

相談は通常どおり「チャットワークの相談フォーム」から申請をお願いします。

* ②で大学名を指定している場合は、希望校の申請は不要です。速やかに出願をしてください。

<補足、Q&A>

* 指定する判定の中から、純粋に進学を希望する大学を選択して希望校の申請を行ってください。

* 指定する判定外の大学を希望校に含んでいる場合は回答は行いません(判定を一覧でお送りしている上で、推奨していない大学の回答を行う意義がないため)。

「こちらが指定する判定の中の希望校への回答を行う」サポートであって、適当に選んだ大学に対してコメントをするものではありません(意義がないため)。

下記にも記載のとおり、出願先を強制するわけではありませんので、最終的な出願の判断は自由です。(ただし推奨どおりに出願することを強く推奨します)

* 判定が変わると合格可能性が大きく変わることが多いです。

例外は多いものの、判定が一つ違うと合格確率が2倍違うイメージで捉えてください。

(例:A判定の大学と、C判定の大学では合格率が4倍違うイメージ)

ただし、順番に並んでいるだけなので、例えばA判定の最後の大学とB判定の最初の大学は実質ほとんど同じになることが多いです。

A,B判定が多く出ている場合は同じ判定内でも大きく合格可能性が違う場合や、

上記のとおり総合的に判断すると逆転することもあります。

判定は高く出ている、足切りになるリスクが高い大学が含まれていることもあります。

また、D判定からの合格者は例年多くいますし、E判定の合格者もいます。

このように非常に複雑なので、判定だけをみて自己判断することは絶対にやめてください。

指示に沿って、指定の中から希望校の申請を行いましょう。

個別でフィードバック回答をお送りします。

*「希望はなく、合格可能性が高い大学に出願したい」方は、判定値の高い大学から5校まで選択してください。

* 募集人数が少ない大学は合格可能性、足切りリスクの観点から推奨がしづらくなります。

・札幌医科大学の一般枠は募集人数が少ないため推奨から外れます。(地域枠であれば推奨になります)

→希望校の申請時に必ず一般枠or地域枠併願などの記載をお願いします。

・奈良県立医科大学の前期試験は募集人数が少ないため推奨から外れます。

④国立医学部の最終受験校の決定と出願

出願校が決まり次第、塾生ページの「受験期フォーム」→「国公立医学部最終受験校申請フォーム」より申請を行い、各自で速やかに出願を行ってください。

* 最終受験校申請フォームの申請が確認できた方から、国立医学部の対策の案内(模擬面接の案内等)をお送りします。

* 重要: 推薦入試の受験校は、「受験期フォーム」→「推薦AO入試の受験校決定申請フォーム」から申請してください。
推薦対策の案内をお送りします。

* 重要: 推奨校をお送りした人は、受験しない場合も必ず「受験せず」と記載して申請してください。
(私立医学部専願など、国立医学部の推奨校をお送りしていない人は不要です)

* 医学部以外の他学部を受験する場合は○○大学(他学部:○○学部)と記載して申請してください。

・願書の添削を希望する場合は「願書添削申請フォーム」から申請を行ってください。(ただし添削には3日程度かかる場合がありますので予めご了承ください。)

⑤受験番号の申請

受験票が届きましたら「受験期フォーム」→「受験番号申請フォーム」より申請してください。(私立医学部と同じフォームの下部に国公立医学部一般入試、推薦入試の記入欄があります)

受験番号の申請にて塾長および医学生講師は最終的な受験の有無を確認しますので必ず申請をお願いします。

- * 足切りになってしまった場合は、「○○大学 足切り」と記載してください。
- * 推薦入試も申請をお願いします。
- * 医学部以外: 他学部の受験番号の申請は不要です。

▽国立医学部の出願に関する相談対応について

* 出願に関する相談はすべて、「チャットワークの相談フォーム」からの申請をお願いします。

注意: 希望校の申請は上記のとおり、「塾生ページの申請フォーム」から申請をお願いします。

* 重要: 出願に関する塾長面談や保護者面談は行いません。

過去に塾長面談、保護者面談を実施していましたが全く意義がないどころか、生徒様の出願が遅れるだけで終わっています。

また、近年は塾長面談の実施を行わなくした結果、ほとんどの生徒様が推奨どおりに出願され、結果的に国立医学部の合格実績も向上しています。

・塾長面談や保護者面談の日程調整には3日以上かかる上に、面談では正確な判断をお伝えできないため全く意義がなく、出願までの時間が過ぎてしまうだけで終わってしまう。

・塾長面談ではセミナー動画で解説した内容を話すだけ、推奨校の変更もない、希望校からの総合的な判断には時間がかかるため面談中には回答できない。

・塾長面談の説明を生徒様や保護者様が誤って捉えた結果、合格率0%の大学に出願してしまった。

(過去の失敗例

保護者様:「小さい頃からの志望校だったため、推奨外だが○大学に出願したい。絶対に合格はできないのか？」

塾長:「何事も、絶対とは言い切れないが、これまでのデータからは推奨できません。」

→「塾長が、絶対とは言い切れない、可能性があると言っていた！」と誤って捉えてしまい、詰み。)

・推奨校の判定理由についてはすべてこの資料で説明しています。データにもとづいた合格確率で決定すべきであり、それ以外の情報はすべて意義がありません。

・その上で、相談がある方は「チャットワークの相談フォーム」からの申請をお願いします。(こちら、判断には変更はないため意義はありませんが、どうしても説明を聞いて納得をしたいという方はチャットワークの相談フォームをご利用ください。ただし回答は約束できず、タイムラグもあるので出願が遅くなるだけで、あまりメリットはないと思います)

▽国立医学部に向けた課題について

下記の例など、特定の科目の課題が不要になった人は、課題作成において対応可能です。

- ・国立医学部の二次試験で英数のみ
 - ・医学部以外の他学部を受験する場合
- など

*ただし、後期試験を含めて私立医学部の試験が残っている場合は、これまでどおりの課題作成を行うことを推奨します。

*希望者は「塾生ページの申請フォーム」から下記を記載して申請をお願いします。

文例

「国立医学部の試験で理科がないため、英語数学のみの課題作成を希望します。」

「残りは他学部の受験のみとなり、英語のみの課題作成を希望します。」

▽国立医学部の過去問演習について

最新年度の過去問を1回演習しましょう。

演習するよりも問題集等で復習することが大切なので、1回の演習で問題ありません。（実際、国公立の過去問演習を全く行わずに合格した卒業生も例年います。）

ただし時間に余裕がある場合は、解き方の確認や復習事項を見つけるために演習を追加して行っても大丈夫です。

通塾、Zoomコースの分析シートの提出は任意としますが、時間的に余裕がある場合は提出するようにしましょう。提出があれば添削やフィードバックを行います。

▽国立医学部の対策（面接小論文対策、模擬面接、英作文の添削）について

・塾生ページの「面接小論文対策」の資料、動画を参照してください。
（塾生ページ→「推薦、面接、小論文対策」）

・英作文添削、模擬面接など

「国公立医学部最終受験校申請フォーム」申請者に別途ご案内をお送りします。

▽国立医学部の推奨校の算出方法について

・共通テストの傾斜配点を全国50の国公立医学部全てで計算

共通テストの配点は大学によって異なります。全国の医学部の傾斜配点を各生徒の共通テストの点数報告に基づき算出しています。

・個別試験に向けた学力の傾斜配点を計算

個別学力試験の配点や必要教科も大学によって異なります。全国の医学部の傾斜配点を各生徒の模擬試験の成績報告に基づき算出しています。

・共通テストおよび二次試験比率、共通テストボーダー、偏差値ボーダーを基に判定を算出

共通テストと二次試験の比率が大学ごとに異なります。生徒ごとの傾斜配点、比率、共通テストボーダーおよび偏差値ボーダーをもとに推奨校を判定しています。

・理科および社会の科目選択

理科や社会の科目を指定している大学があります。選択科目上、受験できない大学は推奨校には含めていません。

(万が一受験できない大学が含まれている場合は相談フォームより申請してください。)

・足切り予想を明らかに下回っている場合は推奨から外しています。

▽国立医学部の合否は出願校を間違うと詰んでしまう (合格率0%になる)

エースアカデミーでは各生徒様の50大学すべての合格率を算出。

(数値はイメージです。)

* 国立医学部に合格した生徒様の例 ①

合格率40% : 2大学

合格率10% : 8大学

合格率0% : 40大学

→合格率40%の2大学から出願し、合格。

* 国立医学部に合格した生徒様の例 ②

→合格率80%の5大学から出願し、合格。

合格率80% : 5大学

合格率50% : 15大学

合格率20% : 20大学

合格率0% : 10大学

* 失敗例

合格率80% : 5大学

合格率50% : 15大学

合格率20% : 20大学

合格率0% : 10大学

→合格率0%に出願し、不合格(出願した時点で、詰み。)

詰む出願をする人は、

「志望校にこだわる」「学校の先生の間違ったアドバイス」「世間の間違った情報による自己判断」が原因です。

*** 重要！**

国立医学部は前期1校しか出願できないので、出願選びを間違えると合格率0%に。
出願校によって合格率は50%以上大きく変動する。間違えると、文字通り詰んでしまう。

→全国50校から選び抜くことが重要。

エースアカデミーでは過去のデータと、生徒様個別の共通テストの傾斜配点、模試の成績等をすべて計算していますので、合格率が何%か、ほぼ正確に把握できています。

せっかく合格可能性が50%以上ある大学があっても、出願校を間違えると簡単に0%になります。

これまでの努力をすべて無駄にする行為ですので、出願校は推奨に従って選択してください。

*** 重要！**

国立医学部

→共通テスト+模試成績による

「出願時の判定」で合否がほぼ決定

→「過去問演習」「個別の大学の対策」「応用問題集」「面接小論文対策」などは合否に全く関係ない

(参考)河合塾様の過去資料(動画参照)

→判定が悪くて受験している受験生も多いが、ほぼ全滅に終わっていることがわかる。

▽国公立医学部の受験校選びのポイント

*** 二次試験に向けた学力が非常に重要**

国公立医学部は共通テストの点数以上に二次試験に向けた学力が合否に大きく影響しています。実際に過去の卒業生のデータからも、共通テストの点数がよくても二次力がないと合格は難しく、逆に二次力があれば多少共通テストが悪くても合格する可能性は高いことがいえます。そのため共通テストのボーダーだけで受験校を選ぶのはNGです。

①共通テストでも二次試験の成績でも上回っている医学部に出願するのが最も安全策

②どちらかの場合は、二次試験で上回っている方が可能性は高いことが多い

(希望を申請いただいた後、個別で判断を行います)

③共通テストでも二次試験の成績でも下回っている医学部に出願するのは最も危険

* 足切りについて

共通テストで足切りになると二次試験の受験資格が与えられることなく不合格となります。足切りは「設定なし」「得点率で設定」「募集枠の倍率で設定」の大きく3パターンにわけられます。

その中でも募集枠の倍率で設定している大学が多くありますが、大手予備校が公表している足切りはあくまでも予想です。

例えば募集定員が60名で、定員の5倍の人数で足切りが行われる場合、その医学部に出願した受験生の共通テストの得点(傾斜計算後)を上から順番に並べ、301番目以降の受験生が足切りとなります。

そのため、出願が終わるまで何点で足切りが行われるかはわかりません。実際に、共通テストのリサーチ後に発表される足切り予想と、入試が終わってから発表される足切り結果に大きな差がある大学が例年あります。

また、共通テストの結果が悪かった場合に「足切りにあわない医学部に出願したい」という受験生がいますが、いわゆる記念受験の発想であり、推奨しません。当然ですが合格可能性が少しでも高い医学部に出願すべきです。

・倍率について

よく出願者数をみて右往左往する人がいますが、倍率は重要ではありません。学力のない受験生が大量に出願してもボーダーは全く変わりません。逆に学力が高い受験生に人気の医学部は、倍率は低くても難関となります。

そのため倍率をもとに出願校を決めるのはNGです。

・ボーダーの上下は人気とは関係ない

ボーダーの上下は人気とは関係ありません。多くの場合、共通テストの教科の難易度の上下と大学別の傾斜配点によってボーダーが上下しているだけです。

例えばセンター試験の英語が非常に易化し、国語が難化した年度があります。その年度では新潟大学医学部のボーダーが上昇しましたが、新潟大学は国語社会の配点が低く、相対的に英語の比率が高い大学です。そのため、英語の易化による影響が大きく、ボーダー上昇につながったと考えられます。倍率が上がったからボーダーが上がったわけではありません。

・二次試験での逆転について

共通テストの点数が悪かったときに、二次試験での逆転を狙って共通テストの比率の低い大学に出願したいという受験生がいます。

しかし、基本的には共通テストの比率が低い大学ほど偏差値が高い傾向にある上、どの国公立医学部も河合模試の偏差値では65以上となるため、二次試験で逆転するということは、偏差値

65以上の受験生に対して二次試験で共通テストの点差を跳ね返すだけの点数をとらないといけないということです。

共通テストで失敗したからといって無理に二次試験逆転を狙おうとすると、共通テストでも二次試験でも点差をつけられてしまい(ダブルパンチ状態)、合格可能性がゼロになって詰みます。

▽国立医学部出願の失敗例と注意点

- ・世間のほとんどの情報: データ、確率を全く考えていない

当然ですが、受験校選びは、「合格できる確率」を考えることが最も重要です。

しかし、世間のほとんどの情報、学校や予備校の先生のアドバイスは、全く確率を考えていません。

- ・誤った情報に振り回されないように

受験校選びについての情報が多く出回っていますが、塾生ページの資料にない情報は、「誤っている情報」or「どうでもよい枝葉の情報」です。

(「どうでもよい枝葉の情報」= 確率を考えていない)

- ・過去の保護者様の例

「○○大学は英語の資格試験のスコアをもっていると有利になると聞いたから受験させたい」

→「英語の資格試験のスコアによる有利」が合格率にどの程度影響を与えるかが全く考慮されていません。

実際にこの保護者様が「受験させたい」大学は、「英語の資格試験のスコアの有利」を考慮してもE判定でした。

ほかにより判定のある医学部が複数ある状況で、「英語の資格試験」だけを考えて出願するのは明らかに誤った判断だといえます。

(この卒業生は、結果として当塾の推奨校のとおりに出願され、無事国立医学部に進学されています)

- ・「再受験生は○○大学が有利と聞いた」という理由で推奨校を無視してその大学に出願し、残念ながら不合格となった例があります。

これは「再受験生は○○大学が有利」という情報自体が間違っていたのですが、

そもそも「有利」という、割合を全く考慮していないレベルの情報によって推奨校を無視してしまうのは、明らかに誤った判断です。

ほかにも「倍率」「過去問演習の相性」「配点」「得意不得意教科」「問題傾向」などで判断するのはいずれも「そもそも誤った判断」or「医学部合格の可能性への影響を考慮できていない」ことによる誤りです。

▼国立医学部の受験校選びのよくある間違った思い込み

- ①志望校にこだわり、「気合」で合格しようとする
- ②あらかじめ志望校を5大学に絞り、共通テストの結果をみてその中から出願しようとする
- ③倍率が重要だと思い込んでいる
- ④過去問演習をして「相性」で選んでしまう
- ⑤合格最低点を見ることが重要だと思い込んでいる
- ⑥得意・苦手科目と配点が重要だと思い込んでいる
- ⑦大学別の情報や頻出分野、問題傾向を調べることが重要だと思い込んでいる
- ⑧性別や年齢への寛容さなどを調べることが重要だと思い込んでいる
- ⑨共通テストに失敗したため、二次配点の高い医学部に出願して「逆転」しようとする
- ⑩足切りのない医学部に出願しようとする
- ⑪大学ごとの傾斜配点をそもそも知らない
- ⑫全国50校から緻密に計算し、論理的に最適な医学部を受験しようとしていない
(間違った情報や思い込みで雑に決めてしまう)

▼国立医学部受験校選びのよくある失敗例

→合格可能性がない「志望校」にこだわって出願してしまい、「詰んでしまう」

→全国50大学から正しく出願校を選べば合格可能性があったのに、出願校をいい加減に選んでしまった結果、詰んでしまう

→これまでの努力をすべて無駄にってしまう！

<2025Q & A>

・様々な不安、相談について

これまで多くの国立医学部受験者をみてきています。

多くの生徒様や保護者様が考えることは、これまでの卒業生もすでに考えてきていることです。

当然、エースアカデミーではしっかり対応できるようシステムをつくってきています。

その点を信用していただくことが、生徒様の合格可能性を高めることにつながります。

・推奨外の大学に出願してはいけないのか？

塾として大切なことは、データとプロとしての経験および判断から、それぞれの生徒様に最適な推奨校を正しくお伝えすることだと考えています。

その根拠も十分説明してきています。

その上で出願先を強制するわけではありませんので、最終的な出願の判断は自由です。(ただし推奨校どおりに出願することを強く推奨します)

・足切りについて

推奨校および希望校申請後の回答では、足切りの安全面も考慮して回答しています。
ただし自己採点の間違い、想定以上の足切り上昇など、常にリスクはあるのでご了承ください。
また、他に合格可能性の高い医学部がない場合は、足切りのリスクがある大学を推奨する場合があります。

・塾の推奨や回答は、データの的に「合格確率」としての回答であり、それ以外の判断基準はありません。

確率なので、推奨どおり出願しても合格できない場合もありますし、判定が悪いところに出願して合格することもあるのは当然です。

ただ、合格確率が大きく異なることがあるため、回答をしています。

・推奨や回答の理由を教えてください

→理由の説明に意義はないため、行いません。データの的に回答しており、それ以上の説明はありません。

(例 なぜ東大の方が京大よりボーダーが高いか？と聞かれても説明に意義がないのは当然です。)

・第1希望よりも判定値が高い大学があっても第1希望の推奨で回答を行うこともよくあります。
合格確率に大きな差がなく問題なしと判断しています。

そのため、希望校の選択は指定する判定の中であれば、純粋に希望する大学の順で申請をお願いします。

・希望校の回答の際に「どちらも同等なので希望する大学の出願でよい」と回答があったが、細かい可能性の違いを教えてください

→細かい違いにこだわっても意義はありません。

合格確率が誤差の場合は希望校への回答のときに「どちらも同等」と回答します。指示どおり、進学を希望する大学の出願で問題ありません。

・昨年受験した大学の開示をすると、もう少しだったから受験したい

→他の大学の否定にはならず、今年の出願校選びと全く関係ありません。

・合格可能性を聞いてから希望するか考えたい

→合格可能性は推奨校で送信済みです。

まずは上記指示のとおり、指定の中から希望校を第5希望まで申請し、判断した方が早くて確実です。

・C判定の希望大学にするか、A判定の大学にするか相談したい

→通常はA判定の大学が合格可能性は高くなりますが、例外もあります。

希望校の申請後、C判定の大学も推奨していれば、合格可能性に問題がないため、C判定の大学で出願は問題ありません。

その上で、塾としては可能性の判断しか回答できないので、どちらにするかは自身で判断するかありません。

・問題との相性について

→相性は全く関係ありません。

ただし、希望校申請後の回答などで合格可能性が同じ大学を複数提示した場合は、過去問をみて判断するのは工夫としてはOKです。

(合格可能性とは関係ないが、抵抗感があって不安な大学を避けるなど)

ただし上記のとおり、絞り込んだあとの最後の判断であって、推奨校から選ぶべきです。